

と思います。二〇二〇年十二月からは、
Fib-4 index 計算サイトを活用した

「熊本肝炎・脂肪肝プロジェクト」を
始動しましたので、是非ご活用頂けれ
ば幸いです(図2)。

今年度からは熊本病院副院長を拝
命しましたので、熊本大学のために少
しでも貢献できればと存じます。今後
ともご支援のほど、よろしくお願い申
し上げます。

熊本大学大学院生命科学研究所 放射線診断学講座

教授 平井 俊範



令和二年九月一
日付けをもちまし
て熊本大学の講座
担当者として五年
ぶりに母校に戻っ

てまいりました。私は平成元年に第三
代の高橋睦正教授が運営をされていた
放射線医学教室に入り、興梠征典先生
のもとで神経放射線学の研鑽を積みま
した。この度第五代教授として先代山
下康行教授から伝統ある教室を引き継
ぐことを光栄に思います。また、この

伝統ある教室をさらに発展させていく
所存です。

さて、私は宮崎大学に五年間在籍し
ましたが、大学院生の教育のほか、私
たちの教室が主導して脳腫瘍や脳血管

障害に関する全国多施設共同研究を複
数行いました。産学連携にて骨折のA
I自動診断技術を開発し、今特許を申
請中です。また、環境省からの委託研
究として、水俣病における脳構造の統

計解析を国立水俣病総合研究センター
と東京大学と共同で行い、MRIを用
いた水俣病患者の脳皮質や白質の異常
の網羅的探索のほか functional MRI
による脳神経のネットワーク異常の探
索などを行ってきました。宮崎大学に

関する朗報として、昨今、大学野球部
の後輩である海北幸一君、西山功一君
が宮崎大学医学部の教授に就任しまし
た。大学野球部、および宮崎大学の先
輩として大変うれしく思います。

現在、私どもの教室は、最先端のC
T、MRI、PET装置を駆使して高
度な画像診断を行い、また、インター
ベンシヨナルラジオロジー(IVR)
においても本邦で屈指の症例数で、非
常に高度な技術で診療しています。ま
た、教育においてもICTを用いた環

境整備や支援体制の充実を図り、優れ
た放射線科医の養成を行っています。
さらに熊本県下を始めとした多くの公
的病院に放射線科専門医が常勤医とし
て勤務し地域医療にも貢献しています。

私のモットーは大学や地域に貢献す
る教室であることです。診療や教育は
勿論ですが、熊大の伝統である
研究を重視して行きたいと思えます。

本年四月に大学院生に九名入学しても
りました。若い人々を中心に研究
を盛り立てたいと考えています。それ
から、地域医療にも尽力したいと思
います。熊本には、くまもとメディカル

ネットワークという素晴らしい医療情
報ネットワークがありますが、今後県
内のビッグデータを活用して研究や診
療を行う上でこのネットワークは大き
なカギになるものと考えます。医療情
報部や県医師会のご協力のもとに、将

来的にはクラウドを利用して、大学と
地域の連携が進めばと期待しておりま
す。

最後になりましたが、肥後医育振興
会の会員の皆様には今後大変お世話に
なるかと存じますが、ご指導、ご鞭撻
のほど何卒よろしくお願い申し上げま
す。

熊本大学大学院生命科学研究所 皮膚病態治療再建学講座

教授 福島 聡



二〇二一年二月
一日付で熊本大学
大学院生命科学研
究部皮膚病態治療
再建学講座教授に
就任いたしました。皆様にご挨拶
申し上げます。

私は熊本市に生まれ、生後まもなく
熊本大学第二内科出身である父の国立
がんセンター研修に伴い東京に移りま
した。その後も横須賀、松戸、大分と
父の転勤で転々となりましたが、熊本市
で父が開業した後は白川中学校、熊本
高校、熊本大学とずっと熊本で育ちま
した。

熊本大学医学部卒業後は、父のクリ
ニックを継ぐ内科医になるべきだった
のですが、ポリクリで手術に魅せ
られ、進路は皮膚科と外科で迷いまし
た。決め手になったのは、自分がひど
いアトピー性皮膚炎であったことです。
当時アトピー性皮膚炎にはステロイド
しか治療法がなく、怪しげな民間療法